



春先に向け、吸血昆虫対策(特にサシバエ対策)を強化しましょう!

昨年11月に国内で初めてランピースキン病の発生が確認され、これまでに2県22農場において発生が確認されています。本病を媒介する吸血昆虫が活発となる春先に向け、対策を強化しましょう。特に、個体数や吸血頻度が多いサシバエ対策が重要です。

①卵・幼虫・さなぎの対策

【卵や幼虫の特徴】

牛舎壁の隅・溝、ウォーターカップ・ゴムマットの下に存在

【対策】

隙間、溝の清掃。成牛が踏まない場所(特に牛舎隅)や子牛の牛床全体への昆虫成長制御材(IGR剤)の散布

【さなぎの特徴】

堆肥などの中で越冬

【対策】

堆肥の適切な頻度での切り返しと水分管理によって発酵熱を高め、殺虫を行う

②成虫の対策

【成虫の特徴】

春先の比較的涼しい時期に活動が活発化

【対策】

作用機序の異なる殺虫剤をローテーションで使用する
網目が6mmの薬剤含浸防虫ネットやハエ取り紙の設置
牛舎周辺の草刈り

※対策の詳細は、別紙リーフレットを参照してください※

お問い合わせ・ご連絡は、千葉県中央家畜保健衛生所まで

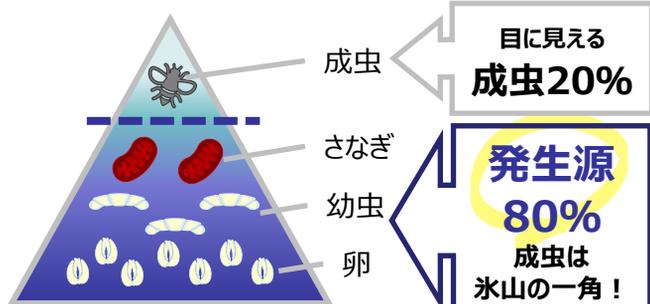
TEL. 043-250-4141 (夜間・休日転送※) FAX. 043-286-0090

※夜間・休日は転送されますので、5回以上コールをお願いします。

春先に向けたサシバエ対策で 牛を病気・ストレスから守りましょう！

はて？ 冬季のサシバエ対策？ 春・秋よりサシバエ見ないけど・・・

成虫がいる = 幼虫はもっと潜んでいる



温度とサシバエが卵から成虫になるまでの
発育日数の関係



冬季は気温が低いので、発育速度が遅い！
幼虫対策をすれば、殺虫剤を撒く回数も減少！

九州の冬季サシバエ対策は、寒いうちから！

スタートが遅れると、ハエの数は爆発的に増加します・・・

1. 幼虫対策は、堆肥等の管理とIGR剤の散布！

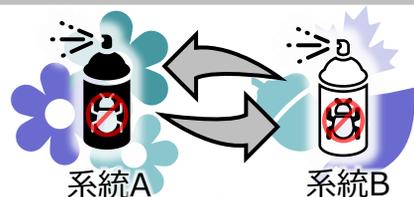


堆肥の切り返しは
隅々まで！

牛舎隅など牛が踏まない・糞の取り残しがある場所、
カーペンなど子牛のいる牛床にIGR剤を散布！

つなぎ牛舎は
バークリーナーへ散布！

2. 成虫対策は、防虫ネットや殺虫剤ローテーションで！



地面や床から2 mは防虫ネットで
覆えるようにしましょう！
隙間や穴がないか確認を！

殺虫剤は
サシバエが飛ぶより
上を狙って噴霧！

殺虫剤はローテーションを！
噴霧量が十分か確認！

3. 対策は地域ぐるみで！ 関係業者もご一緒に！

サシバエ対策、ここをチェック！

1

堆肥・敷料・残餌はしっかり管理できている！

- ・切り返し等により堆肥発酵時の中心温度が65度になることを確認
- ・牛床は清潔に保たれ、汚れた敷料や残餌は片付いている

いいえ

IGR剤を撒き、幼虫対策をしている！

- ・バンスクレーパーが通る前にバークリーナーに散布
- ・牛の踏まない所を中心に散布（特に牛舎隅など）

いいえ

サシバエ幼虫は、堆肥等の管理 + IGR剤で限りなく減らそう

サシバエの成虫 1 匹は、生涯600個もの卵を産む。冬の成虫 1 匹は来シーズンの 1 万匹に相当すると言われるほど、冬季対策が重要。サシバエの活動が低下している冬季だからこそ、地域ぐるみで幼虫対策をしましょう！

すばらしい！

はい

その調子！

はい



子孫残せイ…

2

牛舎内でハエ成虫をほぼ見ない

いいえ

サシバエ成虫を、牛舎内で見かけたら、対策徹底！

サシバエは農場内でも発生するし、他所からも飛んだり運ばれたりしてやってくる。地域ぐるみでの対策が重要。サシバエの持ち出しや持ち込みがないよう農場出入り業者にも車内の殺虫をお願いしましょう。

みんなのお手本！

はい



ココハ住対イ～

サシバエ成虫対策 3つのポイント

1. 殺虫剤はローテーション

同じ殺虫剤を連用していると、生き延びたサシバエが耐性を持つことがある。殺虫剤が効きにくくなる前に、系統が異なる殺虫剤とローテーションで回していこう。十分な濃度・噴霧量で散布しているかも要チェック。

2. 防虫ネットの設置

地面から2mの高さまで床から天井に向けて設置。穴が開いてないか定期的にチェック。

3. 下草刈りや防草シートの設置

サシバエが日中休息する牛舎周辺の下草を刈ろう。防草シート設置も効果的。